

学 会 録 事

1. 2005年日本藻類学会第1回持ち回り評議員会

平成17年3月4日から18日に第1回持ち回り評議員会を開催し、下記の事項について審議した。

(1) 英文会則の策定について

外国人会員への、国内会員と同等のサービス提供の一環として作成した英文会則案について審議し、この案が英文会則として承認された。

(2) 団体会員会費の見直しについて

団体会員への学会誌の配布費用等の諸経費が現行の団体会員会費(15,000円)を上回ることから、団体会員会費の18,000円への値上げが提案され、審議された。その結果、会費の値上げについては承認されたものの、改訂額については3月27日の評議員会に持ち越された。

(3) 会則の改訂について

バックナンバーの購入に関する付則第5条の中の「会員」の文言の「普通会員」への変更が審議され、承認された。

(4) 会費納入の口座振替サービス導入の提案

会費納入システムを簡便にし、会費納入率の増加および会員管理担当庶務幹事の仕事の軽減を図る目的から、会費納入の口座振替サービスの導入が提案され、審議の上承認された。加えて、導入の効率を上げるため、初年度の引き落とし経費を学会負担とすることが同時に提案され、審議の上承認された。

(5) 英文誌Phycological Researchの発行形態の見直しについて

英文誌Phycological Researchをさらに国際的な雑誌として発展させるために改革を行うこと、またそのための実務的な委員会を発足することが提案され、審議の上承認された。

2. 日本藻類学会第29回大会報告

(1) 日本藻類学会第29回大会

上記大会を2005年3月27日-30日、大会会長中原紘之氏(京都大学)のもと、京都大学吉田南総合館北棟(京都市)を会場に開催した。参加者256名、講演数127題(うち口頭発表は86題、展示発表は41題)に及んだ。

大会1日目は午後から京都大学総合人間学部棟1103室にて、編集委員会と評議員会を開催した。大会2日目は最初に展示発表要旨の口頭発表を行った後、午前午後ともA、B両会場で口頭発表を行い、午後6時よりA会場にて日本藻類学会総会を開催した。総会終了後、京都大学生協吉田食堂で懇親会を催し、約200人の参加があった。大会3日目は午前中に口頭発表と展示発表を行い、午後は口頭発表の終了後、公開シンポジウム「藻類を通じて環境を考える」(主催:日本藻類学会第29回大会実行委員会、共催:(独)国立環境研究所)を京都大学時計台記念館百周年記念ホールで開催した。4題の講演(「藻類と環境政策」(渡邊信・国立環境研究所)、「藻類と地球環境」(熊谷道夫・琵琶湖研究所)、「海藻類と沿岸環境」

(川井浩史・神戸大学)、「藻類と環境教育」(石川依久子・東京学芸大学))があり、一般の方々も含め200名ほどの参加があった。大会3日目にはエクスカッションとして5名が参加して琵琶湖博物館の見学を行い、無事、本大会を終えた。

京都大会の開催にあたり、中原紘之大会会長をはじめ、大会準備委員会の今井一郎氏、鯉坂哲朗氏、宮下英明氏、幡野恭子氏、京都大学の大学院生および学部学生諸子等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。またシンポジウムを共催していただいた(独)国立環境研究所に厚く御礼申し上げる。

なお、昨年までは大会参加者の氏名を掲載していたが、個人情報保護の観点から、今年度から参加者氏名の掲載は控えていただく。

(2) 編集委員会・評議員会

3月27日午後3時から京都大学総合人間学部棟1103室において、英文誌編集委員会および和文誌編集委員会の合同編集委員会を開催した。

和文誌について前川和文誌編集委員長より第52巻「藻類」および53巻「藻類」の編集状況に関する報告があった。2004年に発行された「藻類」52巻には5編の原著論文や一般記事、学会プログラム等が掲載され、総頁数は186頁であった。53巻については現在審査中の論文2編があることなどが報告された。また、委員から和文誌のPDF化について提案があり、今後の検討課題とされた。

英文誌については奥田英文誌編集長から「Phycological Research」の2004年度、2005年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2004年度は52巻4号をDIN07のプロシーディングとした結果、総頁数435頁、掲載論文数41編であったことが報告され、契約頁の超過とページチャージについて説明があった。2005年度については53巻2号までで16編の掲載があり、現在53巻3号の発行準備を進めているという報告があった。さらにオブザーバー参加のBlackwell Publishing AsiaのKatie Julian氏から同社で編集したAnnual Reportに基づいた説明があった。その後、本誌のより一層の国際化へ向けての取り組みなどについて提案や議論がなされた。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後4時半より開催された。川井会長を議長に選出し、2005年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

合同編集委員会・評議員会開催にあたっては中原紘之氏、鯉坂哲朗氏、宮下英明氏に大変便宜をはかっていただいた。記してお礼申し上げる。

(4) 2005年度総会

3月28日の口頭発表終了後、午後6時より大会会場となった京都大学吉田南総合館北棟A会場にて総会を開催した。川井会長の挨拶の後、富山大学の渡邊信氏を議長に選出して総会の議事に入った。

[報告事項]

・庶務関係

(1) 会員状況 (2005年3月3日現在) : 名誉会員5名, 普通会員593名, 学生会員84名, 団体会員58名, 賛助会員13名, 外国会員127名 (32カ国), 国内購読22件。

(2) 2004年度事業報告 1) 日本藻類学会第28回大会・評議員会・総会 (北海道大学学術交流会館, 3月27日-30日) を開催した。2) 和文誌「藻類」52巻1-3号を発行した。3) 英文誌「Phycological Research」52巻1-4号を発行した。4) 第7回日本藻類学会論文賞 (寫田智氏, 平岡雅規氏, 名畑進一氏, 飯間雅文氏, 増田道夫氏) を授与した。5) 日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙を実施した。6) 日本藻類学会会員名簿を発行した。7) 日本藻類学会会則の改定を審議した。8) 第1回日本藻類学会研究奨励賞の募集を行った。9) 2004年度日本藻類学会秋季シンポジウム「海藻産業の海外事情-現状と展望-」(日本橋ロイヤル・パークホテル, 11月26日) を開催した (日本海藻協会と日本応用藻類学研究会との共催)。10) 第7回マリンバイオテクノロジー学会大会 (北海道大学学術交流会館, 6月17日-19日) に協賛した。11) 日本植物学会68回大会 (藤沢) で植物分類学関連学会連絡会主催のシンポジウム「植物の体制にブループリントはあるのか」に参画した。12) 日本分類学連合イベント「なん種類の生物が日本にいるか知っていますか? -日本分類学連合ブックフェア-」(ジュンク堂書店池袋本店, 2月1日-3月15日) に参加した。13) 第8回日本藻類学会論文賞の選考を行った。14) 日本学術会議会員候補者の情報提供を行った。

・会計関係

(1) 2005年度3月25日現在の2004年度会費納入率 (雑誌発送会員を対象) は, 普通会員87%, 学生会員75%, 賛助会員100%, 団体会員48%, 外国会員75%であった。

(2) その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2004年度に発行した和文誌「藻類」第52巻は, 総頁数186頁, 内訳は原著論文5編, その他であった。また, 53巻については, 現在, 審査中のものが2編あるとの報告があった。

(2) 2004年度に発行した英文誌「Phycological Research」第52巻1-4号は, 総頁数435, 掲載論文数41編であった。また, 53巻についても順調に編集作業が進んでいるとの報告があった。これらに関連した詳細については, 前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

[審議事項]

・庶務関係

(1) 2005年度事業計画として以下の事項が承認された: 1) 日本藻類学会第29回大会・評議員会・総会 (京都大学吉田南総合館北棟3月27日-30日) の開催, 2) 第8回日本藻類学会論文賞の授与と第9回日本藻類学会論文賞の選考, 3) 第1回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 授与と第2回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 4) 和文誌「藻類」53巻1-3号の発行, 5) 英文誌「Phycological Research」53巻1-4号の発行, 6) 日

本藻類学会会則の改訂, 7) 会費納入の口座振替サービスの導入, 8) アジア太平洋藻類学フォーラム (APPF) の開催, 9) 秋季シンポジウムの開催, 10) 第8回マリンバイオテクノロジー学会大会 (熊本県立大学新講義棟, 5月27日-28日) への協賛

(2) 学会費納入の口座振替サービスの導入について会員管理担当庶務幹事から説明があり, 導入の効率化をはかるため初年度の振込手数料を学会が負担することも含め審議の上承認された。

(3) 団体会員会費の見直しが審議され, 現行の15,000円を20,000円に変更することが承認された。なお, 新たな会費は2006年度から適用される。

(4) 日本藻類学会会則について変更・追加が審議され, 承認された。具体的な変更・追加の内容については「藻類」第52巻2号の学会録事 (p. 131, 2004年度日本藻類学会第1回持ち回り評議員会) および前述の2005年日本藻類学会第1回持ち回り評議員会の項を参照されたい。

(5) 2005年度秋季シンポジウムの開催 (文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」との共催および日本海藻協会との共催) について了承された。

(6) 英文誌 Phycological Research の発行形態の見直しについて提案があり, 更なる国際化へ向けた改革を行うこと, そのための実務的な委員会を設けることが承認された。

(7) 2007年度日本藻類学会大会の開催地を神戸とすることが承認された。

・会計関係

(1) 2004年度一般会計決算報告および同監査報告 (齋藤宗勝氏: 盛岡大学短期大学部, 日野修次氏: 山形大学) は表1-1および表1-2の通り承認された。

(2) 2004年度山田幸雄博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2-1および表2-2の通り承認された。

(3) 2005年度一般会計, 山田幸雄博士記念事業特別会計および研究奨励賞事業特別会計の予算は表3, 表4および表5の通り承認された。

(4) 2005年度-2006年度の会計監事として, 伊藤裕之氏 (神戸市水道局) および渡部雅博氏 (兵庫県龍野健康福祉事務所) の両会員が承認された。

[日本藻類学会論文賞授与]

第8回日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2004年度に出版された和文誌「藻類」52巻1-3号および2003年から2004年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」vol. 51(4), vol. 52(1)-(3)の中から, 規定により審査員の投票によって選ばれ, 総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会で承認されたものである。今回は下記の論文が選ばれ, 総会において論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

Shigeki Mayama, Nagisa Mayama and Ikuko Shihira-Ishikawa
Phycological Research 52(3): 129-139 (2004)

Characterization of linear-oblong pyrenoids with cp-DNA along their sides in *Nitzshia sigmoidea* (Basillariophyceae).

[日本藻類学会研究奨励賞授与]

第1回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた大学院学生等を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は吉井幸恵氏(福井大学医学部高エネルギー医学研究センター)が選ばれ、総会において賞状および副賞(賞金10万円)

が授与された。

3. その他の報告

(1)平成17年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期行物」の「Phycological Research」への申請について

昨年申請した上記補助金研究成果公開促進費「学術定期行物」については、採用されなかった旨、日本学術振興会から連絡があった。「国際情報発信のための取り組みが少し弱い」との意見があったことが付されていた。

表1-1. 2004年度一般会計決算(2004.1.1-2004.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	6,388,600	和文誌印刷・発送費	1,856,526
普通会員	3,978,600	印刷代	1,316,438
学生会員	295,000	別刷代	220,185
外国会員	450,000	発送費	319,903
団体会員	1,035,000	英文誌印刷・発送・校正費	6,904,050
賛助会員	630,000	編集費	400,000
販 売	398,550	和文誌編集補助費	100,000
定期購読	355,950	英文誌編集補助費	300,000
バックナンバー	42,600	庶務費	319,856
別刷代	161,500	事務用品費	29,661
超過頁負担代	1,284,000	会議費	35,560
広告代	180,000	通信印刷費	217,570
受取利息	81	諸雑費	37,065
学術振興会刊行助成金	0	事務補助費	7,000
英文誌還付金	190,356	幹事旅費補助費	57,820
寄付金	2,211,000	大会補助費	120,000
雑収入	2,677	秋季シンポジウム補助費	50,000
		自然史学会連合分担金	20,000
		IAPT藻類学会賞	20,000
		分類学会連合分担金	10,000
小 計	10,816,764	小 計	9,765,252
前年度繰越金	13,624,920	次年度繰越金	14,676,432
合 計	24,441,684	合 計	24,441,684

表1-2. 2004年度貸借対照表(2004.1.1-2004.12.31)

貸 方 (円)		借 方 (円)	
普通預金(山形銀行、東山形)	5,045,212	次年度繰越金	14,676,432
普通預金(四国銀行、朝倉)	3,777,861	前年度繰越金	13,624,920
郵便口座(山形)	2,700,823	当期余剰金	1,051,512
郵便口座(高知)	3,132,779		
現金(山形)	19,757		
合 計	14,676,432	合 計	14,676,432

表 2-1. 2004 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2004. 1. 1-2004. 12. 31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	798	論文賞用雑費	1,785
貸付返済	0		
小 計	798	小 計	1,785
前年度繰越金	2,399,831	次年度繰越金	2,398,844
合 計	2,400,629	合 計	2,400,629

表 2-2. 2004 年度山田幸男博士記念事業特別基金貸借対照表 (2004. 1. 1-2004. 12. 31)

貸 方 (円)		借 方 (円)	
定期預金 (三井住友、京都)	1,900,000	次年度繰越金	2,398,844
普通預金 (三井住友、京都)	498,844	前年度繰越金	2,399,831
現金 (山形)	0	当期余剰金	-987
合 計	2,398,844	合 計	2,398,844

日本藻類学会 2004 年度決算報告に対し記名捺印する。

2005 年 3 月 3 日

会 長 原 慶 明 印

会計幹事 横山 亜紀子 印

2005 年 3 月 11 日

会計監事 日野 修次 印

齋藤 宗勝 印

決算書が適正であることを認める。

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会 費	5,577,000	和文誌印刷・発送費	2,020,000
普通会員	3,600,000	印刷代	1,550,000
学生会員	255,000	別刷代	220,000
外国会員	462,000	発送費	250,000
団体会員	870,000	英文誌印刷・発送費	5,500,000
賛助会員	390,000	編集費	400,000
販 売	350,000	編集補助費	200,000
定期購読	300,000	通信補助費	100,000
バックナンバー	50,000	事務用品費	100,000
別刷代	160,000	庶務費	200,000
超過頁負担代	100,000	事務用品費	20,000
広告代	180,000	会議費	40,000
受取利息	80	通信印刷費	110,000
学術振興会刊行助成金	0	諸雑費	30,000
英文誌還付金	150,000	幹事旅費補助	50,000
寄付金	20,000	大会補助費	120,000
		秋季シンポジウム補助費	50,000
		APPF 補助費	100,000
		口座振替サービス導入経費	132,069
		研究奨励賞事業費	2,200,000
		自然史学会連合分担金	20,000
		日本分類学会連合分担金	10,000
小 計	6,537,080	小 計	10,802,069
前年度繰越金	14,676,432	次年度繰越金	10,411,443
合 計	21,213,512	合 計	21,213,512

表4. 2005年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算(案)(2005.1.1-2005.12.31)

収入の部(円)		支出の部(円)	
受取利息	800	論文賞用雑費	2,000
貸付返済	0		
小計	800	小計	2,000
前年度繰越金	2,398,844	次年度繰越金	2,397,644
合計	2,399,644	合計	2,399,644

表5. 2005年度研究奨励賞事業基金特別会計予算(案)(2005.1.1-2005.12.31)

収入の部(円)		支出の部(円)	
寄付金	2,200,000	奨励賞賞金	100,000
受取利息	500		
小計	2,200,500	小計	100,000
前年度繰越金	0	次年度繰越金	2,100,500
合計	2,200,500	合計	2,200,500

学会・シンポジウム情報

日本海藻協会主催, 日本藻類学会・日本応用藻類学研究会共催

2005 秋季藻類シンポジウムのご案内

10:00~12:00 「我が社の紹介と戦略」(日本海藻協会会員会社の報告)(予定)

日時: 2005年11月30日(水曜日)

場所: 学士会館(東京都千代田区神田錦町3-38)

13:00~17:00 シンポジウム テーマ「海藻と健康」(予定)

17:30~20:00 交流会

日本藻類学会・ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」主催

2005 秋季藻類シンポジウムのご案内

「藻類ゲノム: 生物資源・研究資源」

“ゲノム”は今や日常的な言葉となりつつあります。そこから得られる情報は、様々な研究分野での利用が期待されます。本シンポジウムでは、藻類のゲノム研究が今どこまで進展しているのか、またその情報をどのように利用できるのかなどについて、現在最先端でご活躍の方々にお話いただきます。ホットな話題を、一般の方や“ゲノム”をキーワードにしている学生や研究者の方々にも理解できる平易な言葉でお話しいただく予定です。是非ご来聴ください。演者および講演内容(予定)は以下のとおりです。

渡邊 信(国立環境研究所): シンポジウムの主旨説明および藻類資源について

田畑哲之(かずさDNA研究所): シアノバクテリアのゲノムについて

白井 誠(茨城大学) アオコ毒遺伝子について

松崎素道(東京大学) 単細胞紅藻シアニディオシズンゲノムについて

J. Mark Cock(フランス, Station Biologique de Roscoff) シオミドロゲノムについて

(順不同)

日時: 2005年10月15日(土) 午後1時半より5時

場所: 東京大学理学部2号館講堂(東京メトロ丸の内線本郷三丁目下車徒歩約5分, 東大赤門を入ったらすぐ右手にお進みください。)

参加費: 無料

懇親会: 一般3000円, 学生1000円

当日参加も歓迎しますが、できるだけ事前登録(10月11日までにファクスまたは電子メールで。懇親会参加の有無も。)をお願いします。

【参加登録および問合せ先】

ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」事務局:

笠井文絵(国立環境研究所生物圏環境研究領域)

ファクス: 029-850-2587

電子メール: kasaif@nies.go.jp